

触診完全セミナーDVD

＜脊柱・骨盤編＞

～瞬間上達！！触診のホントのところ～

サンプルムービーテキスト



カイロペーシック

サンプルムービーテキストの使い方

サンプルムービーテキストは、触診完全セミナーDVD〈脊柱・骨盤編〉のサンプルムービー専用テキストです。（特別につくったものです。）

サンプルムービーが始まって、少しの時間を鑑賞していると「参照サンプルムービーテキストP3」とでますので、その時にサンプルムービーテキストの指定ページを参考にしながらムービーを観ていきます。

サンプルムービーとサンプルテキストを一緒にみることにより、本製品と同じような使い方ができます。

<注意>

- ・このサンプルムービーテキストはサンプルムービー用に作ったテキストですので本製品のテキストとは構成などが変わってきます。
- ・サンプルムービーに含まれていない部分がサンプルテキストにあります。
- ・本製品にはP5の腰椎の palpation 実技指導のテキストは含まれません。サンプルムービー用に制作したものです。（※映像の方はDVDに収録しています。）

骨盤のモーションパルペーションのコツ (サンプルムービー1のテキスト)

骨盤モーションパルペーションをする前に、モーションパルペーションで重要なポイントがあります。モーションパルペーションが非常に難しいという声をたくさん聞きますが、わたしも習い始めは、ほとんどわかりませんでした。

やってみても、左右のどちらに動きが「あるか?」「ないか?」がわかりずらかったり、左右のどちらも動きがないように感じたり、動きがあるように感じたり……。

非常にとまどい、迷いました。

そうこうしているうちに、だんだんわかるようになってきましたが、わかるようになるためにはいくつかのコツがあることに気づきました。そのコツとは……

1. 「動く?」か「動かない?」ではなく、「固い」か「やわらかい」で判断。

モーションパルペーションという言葉がある限り、「動く?」か「動かない?」かということがピックアップされてしまうのですが、はっきりいって最初から動きを知ろうと思うことはかなり難しいことです。単純に「固いか」「やわらかいか」というふうに言葉をすり替えることで意外とわかりやすくなりました。

腰椎のモーションパルペーション (サンプルムービー2のテキスト)

●触診ポイント

■棘突起(回旋検査)

回旋を検査する関節の下の椎体の棘突起をしっかりと止めておき、上の棘突起を体重を使って圧をかけるとかたいか、やわらかいかがよくわかります。(写真19)



(写真19)
写真ではL5の棘突起を左から押さえて止めています。そしてL4を右から押して固いか?軟らかいか?をみています。

骨盤のIN・EXの実技指導（サンプルムービー3のテキスト）

●触診ポイント

P S I Sの内側縁の動きをみます。(写真10) 触診ポイントはP S I Sの内側の真横です。

写真11のような示指、中指だとIN・EXのずれの角度とは違いますので正しい触診はできません。



(写真10)



(写真11)

●注意ポイントとコツ

骨盤のIN（内方）・EX（外方）は仙腸関節の動きでは比較的わかりやすいですが、落とし穴があるので気をつけないといけません。

それは、**股関節の内旋、外旋で判断してしまうことです。**

股関節が内旋しやすい場合は、その側の腸骨は「EX」と間違えてしまうことがあります。

また外旋のほうにいきやすい場合は、「IN」と間違えてしまうことがあります。

コツとしては、股関節を内旋もしくは外旋していくと、股関節はロックされ

骨盤にテンションがかかっている感覚を感じるはずで。

この股関節がロックした感覚から少しいったところがIN・EXの動きになります。

下記の(写真12)は股関節がまだロックしていない状態です。(写真13)は股関節がロックして仙腸関節までテンションがきている状態です。(写真はIN検査)



(写真12)



(写真13)

腰椎の palpation 実技指導 (サンプルムービー4のテキスト)

このテキストはサンプルムービー用に作ったために本製品にはありません。
ムービーはDVDに収録されています。

セミナー受講生（以下、受講生）から腰椎のモーション palpation ができているかどうかの確認をしてほしいという申し出を受ける。

受講生からは「L2のLPS」があるのではないかとということを受けて、古谷がチェックする。

古谷が確認したところ、「L2にLP」があるのはあるが、「L4のLP1」のほうが触診時に問題があり、アジャストすると効果があるという判断のもと、受講生にL4をもう一度確認してもらうと受講生もL4の異常に気づき、リスティングも確認する。

その後、古谷がL4のアジャストを試みる。

L4のアジャストが決まり、再度受講生に触診してもらうと明らかにL4の変化がみられ、アジャスト前にあった固さがとれ、触診にも変化がでる。